

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年4月21日
学校法人聖カタリナ学園

幼稚園名	聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園
園長名	藤井 澄子

1. 本園の教育目標

【基本方針】

聖カタリナ学園の目標である『人格形成の礎となる重要な幼児期教育の実践者であることを自覚し、幼稚園教育要領を踏まえながら、小学校との接続を見据えた質の高い前期初等教育を提供する。また、未就園児を含む園児とその保護者を対象とする活動に積極的に取り組み、地域の関係機関と連携・協力しながら、子ども・子育て支援機能を果たしていく』を念頭に、本園では、

- カトリック幼稚園として「こころの教育」を目標に、祈りの伝統を守りつつ見えないものへの畏敬の念や感謝の心を育む。
- 5クラス編成(2歳・満3歳・3歳・4歳・5歳)の縦割り、横割り保育の併用により、異年齢の子ども同士の思いやりや優しい心を育む。
- 大学の教育実習施設としての機能を果たしながら、附属幼稚園として人的物的環境を活かし、専門教育を織り込んだ遊びを展開しながら教育力を高め、地域での幼児教育の拠点となれるように、園の存在や知名度を上げる。

【教育目標】 やさしい心、 祈りの心、 感謝の心を育てる

【目指す子どもの姿】

- 明るく生き生きとした子ども
- 神の恵みに感謝し、「ありがとう」と「ごめんなさい」が素直に言える子ども
- 良心の声に従って自ら行動できる子ども
- よく聞き、よく見、よく考えてやりとおす子ども
- だれとでも仲良く遊べる子ども

【教師像】

- 神に祈り、愛情・謙虚・忍耐を持って自己完成に務める教師
- 心身ともに健康で豊かな教育技術を磨き、研修実践を積極的に推進する教師
- 集団生活を通じて人間関係を育み、自主性・社会性・創造性の伸長を図ることができる教師
- 子どもをよく観察し、子どもから学び取る教師
- 幼児の内面的な生命を尊重し一人一人の可能性を伸ばしていこうとする教師
- 「一人一人がたからもの」をモットーに個人差に留意しながら心身の発達を助長を図り、安心して園生活を過ごすことができるよう楽しい経験の場としての生活環境を整えることができる教師

2. 令和4年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 園児募集対策
- ② 教育課程の内容と日々の保育を各教員が検証する。
- ③ 伝統を継承しながら小規模園としての取り組みを活かしていく。
- ④ 新制度への移行2年目を検証する。

3-1. 評価項目の達成及び取り組み状況（本年度の重点目標）

評価項目	結果	取り組み状況
<p>① 園児募集対策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は年度末に利用定員を満たす。 ・令和5年度は各学年10名ずつの園児数を目標にして利用定員を満たす。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、利用定員を45名で申請し、年度末には45名の在園となって、定員を満たすことができた。 ・年中児は入園当初4名からスタートしたが、転入園児により今年度中に10名の在籍となった。 ・年少児は10名からのスタートであったが、年度末までに満3歳児が4名入園し合わせて14名となった。 ・令和5年度の3歳児入園予定数は、すでに入園している満3歳児を合わせて7名となり目標の10名に届かなかった。 <p>令和5年度の募集分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の統計では2歳からの施設利用を希望する家庭数が頂点であったが、今年度は1歳からの入園希望が増加し、この傾向は全国的に拡大し続けており、保育所や認定こども園（以下保育所等）への入園希望家庭数が幼稚園を上回る逆転現象となって、その差はますます拡大している。 ・全国的に待機園児は解消され、建設ラッシュとなった保育所は定員割れをしている。 ・保育所等は正月以外年間を通して土曜日も開所し、長期休暇がなく、時間外以外は預かり料金が不要。 ・保育所等は0歳から受け入れ、3歳になって慣れ親しんだ環境から幼稚園に転園しようと思う家庭はほぼいなくなった。 ・少子化と高齢出産と結婚を希望しない人の増加により、子どもの人口減少が急激に進んでいる。 ・北条地区は就学後を見通して校区内の園を選択する地域性が根強い。 ・北条地区の3幼稚園はすべて認定こども園に移行し、幼稚園は本園のみである。 ・本園は学校としての教育施設であり、行事等の振替休園や土曜日の閉園は保護者の就労に支障がでることもある。

		<p>今後の対策として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模園だからこそできる丁寧な対応を周知し、附属幼稚園として大学との連携による教育力をアピールしていく。 ・幼稚園生活で園児一人一人が自信を身につけて就学できる道筋を今後も維持し、幼稚園の良さを周知していく。 ・「全園児に対して一人一人の個性を活かした教育ができており、特に困り感を持つ子どもに対して丁寧な対応ができる園」との評価がありこれをアピールする。 ・2歳児、満3歳児の受け入れを積極的に宣伝する。 ・幼稚園では満3歳になった日から無償化の対象になることを周知していく。 ・松山市北部から園バスが利用可能であることを周知し、入園募集を継続して努力していく。
<p>② 教育課程の内容と日々の保育を各教員が検証する。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統である「心の教育」を継承する。 ・教育課程を再構築し、年間を通して一貫性のある教育となるよう各教員が検証する。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統の園生活習慣により、「感謝の心」や「優しい心」が育ちつつあり、自分の言葉で祈る姿が見られるようになった。 ・縦割りと横割りの併用で、特に下の学年に対しての「おもしろい心」を育むことができています。 ・「宗教カリキュラム」を継続し、年間を通して神父やシスター方の講話を拝聴できた他、「資質向上のための計画」を作成し、見直しをもって計画ができるようにした。 ・教育課程を見直していく過程で、モンテッソーリ教育と宗教カリキュラムを有機的に取り入れながら各学年の年間指導計画を見直した。 ・日々の園生活において、小学校への接続を念頭に、「10の姿」につながる子どもの活動や育ちを週案の考察欄に日々記入した。 ・遊びの継続を大切にしながらメリハリのある教育活動となるよう、静と動を計画に織り交ぜ、集中できる時間帯を作った。 ・一人一人の育ちを教員間で共通理解して援助に違いが出ぬように配慮し、子どもが見通しを持って過ごせるようにした。 ・各学年の横割り活動では、年間を通して全園児が活躍できるよう計画し実行できた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携において園や家庭での様子を意見交換し合い、園児が負担感なく過ごすことができるよう園環境を維持した。 ・今年度もコロナ禍で様々な活動の縮小や中止を余儀なくされたが、学びの保障を確保できるよう、全教員で取り組んだ。 ・教育課程の内容を日々の指導計画にどの程度反映できているのか、また、その内容が実行されているかどうかを今後検証し、互いの学び合いからキャリアアップを図っていくことが必要である。
<p>③ 伝統を継承しながら小規模園としての取り組みを活かしていく。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの伝統を受け継ぎ小規模園となった今年度も様々な行事を継承できた。 ・全園児が年間を通して活躍できるよう計画し、少人数になったことでさらに活躍の場が増え、園児の育ちが見えている。 ・配慮の必要な園児に対し、施設支援指導員の指導内容を各教員で共有し、「個別の支援計画」等を作成して丁寧な対応に取り組み教育効果が認められた。 ・各教員は、配慮の必要な園児を含めたクラス運営に対応できる力がついてきたと感じた1年であった。 ・教頭を中心に対応が異なる園児への声掛けを共通理解し、縦・横クラスで違いが出ぬよう配慮しながらクラス運営を行った結果、3学期に入り各園児の成長が顕著に表れてきた。 ・小規模園となる中で、縦割りと横割り編成時には複数の教員配置を維持したことで、各教員が園児との信頼関係を構築できた。また日々の連絡帳に丁寧に取り組むことや、登降園の際には園児の些細な様子を保護者に伝えることを心掛けたことで、教師への相談件数が増えたと感じている。
<p>④ 新制度への移行2年目を検証する。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新制度へ移行して2年目が終わり、利用定員を設定できる仕組みと小規模園への補助が手厚いことで園経営が成り立つことを実感できた。 ・国や県、市から感染対策支援等の補助金を頂戴し、感謝申しあげる。 ・次年度は総園児数減少により給付費金額が減額となるため、さらなる節約で望みたいと思う。

評価項目	結果	取り組み状況
⑤ その他 II. 地域との幼児教育センターとしての役割	C	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児と親子の集い「カタリナ ピッコロ」の内容を見直し、前半はモンテソーリ体験を、後半は音楽または造形遊びを計画した。参加者には喜ばれたが、参加数が伸びなかった。また、感染対策により開催数が減じ、メンバーが固定して広がりがなかった。感染拡大により、「おひなまつり発表会」へのピッコロの参加も中止とした。 ・祖父母との交流である「おもちつき会」は感染対策により中止とし、「お正月遊び」は園児と教員で実施したことで祖父母との交流ができなかった。 ・幼保小連絡協議会や地域の小学校との交流会はやや回復傾向とはなったが、対面での実施はまだ少なく、電話による意見交換を行った。 ・特別養護老人ホーム聖マルチンの家の訪問は3年間ストップしたままであり残念に思う。 ・コロナ禍で2年間延期されていた第18回北条ブロック人権教育研究大会が開催されることになり、発表園として準備を進めてきたものの、間際の感染拡大により対面大会は中止となり、発表資料を作成配布して大会を終了した。担当教員は3年間温めてきた人権教育を文書にて公開できた。
⑤ その他 IV. 人事管理	C	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は皆熱心に仕事にやりがいを見いだせており、各場面で創意工夫が感じられた。一方残業が減らず手当が園経営を圧迫していることもあり、令和5年度も現体制の職員数を維持していく計画であることから、各教員が能率を上げて仕事に励むことができるよう工夫が必要である。 ・配慮を必要とする園児の「預かり」利用が増え、担当教員への補助に常勤が交代で入ったため、担任の業務を勤務時間内に終えることができない状況が続いた。今後の課題としたい。 ・職員研修は今年度もリモート研修が主流となり、常勤はそれぞれ受講したが、研修が少ないと感じている教員もあり、園長との温度差があった。次年度は対面研修に戻ることを予想され、積極的に取り組ませたい。

<p>⑤ その他 V. 財務管理</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新制度への移行により、令和4年度は年度末に利用定員を確保でき、財政状況が好転した。 ・毎年、監査法人（公認会計士）による会計監査を実施しており、財務管理は適切に処理できている。
<p>⑤ その他 VI. 評価と情報の公開</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の「学校関係者評価」を令和4年2月に受け、4月上旬に公表した。 ・今年度から保護者アンケートの結果と自由記述をホームページで公開した。自由記述に給食に関する要望事項が多くあり、給食参観日を実施できた。 ・令和4年度は、コロナ感染が7月と12月に拡大し、1学期の終業式も中止した。ICT導入により、急な対応にも間に合うことができ、園と保護者の利便性を高めることができている。 ・コロナ禍3年目で行事予定の中止や延期もあったが、5月には3年ぶりに「親子遠足」を開催できた。最後の行事である「おひな祭り発表会」では人数制限を撤廃して聖カタリナホールに観客を招くことができ、昨年度よりは園を公開できた。 ・園のHP公開に学年の偏りがあり、次年度の課題としたい。
<p>⑥ その他 VII. 危機管理</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス置き去り事故を受け、園内の様々な危機管理について見直しを行い、「通園バス安全管理マニュアル」を新規作成した。また、「バス乗車チェックシート」等を再点検して、県の委託による市の監査を受けた。今後も危機管理への意識をもって日々取り組んでいきたい。 ・薬剤師による給食の実施状況参観から指導を受け、今年度から「給食日誌」を導入した。 ・12月にコロナ第8波が襲来し、年度末まで感染対策に取り組んだ。年度後半は濃厚接触者が多かったが、大事には至らず、園児達も落ち着いて過ごすことができたと思う。

4. 総合的な評価結果

評価結果	理由
園児募集	<ul style="list-style-type: none"> ・最重要課題であった園児募集は、少子化と保護者就労の加速、保育園入園希望家庭の増加等により、子育てを取り巻く環境が大きな転換期を迎えている中で、本園がこの地で選ばれていないという現実となった。 ・本園への入園を希望していただくために、他施設にはない本園の特色をアピールしていく。特に、「心の教育」に重点を置き、小学校接続を見据えた質の高い教育や園児の表現力の育ち方を広報し、魅力を感じていただけるよう努力する。
C	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「援助の必要な子どもも含めて個々の園児を丁寧な育てることができる園」としてのアピールを続けることで、地域に根差した園となっていけるかどうか、令和5年度の結果が本園の将来を判断することになると推察している。 ・本園職員は幼稚園教育を大切に思っており、困難な時期にあっても希望を持ち、いつも前向きな心は忘れぬように折に触れて話をしている。 ・教員の子どもへの援助力が向上し、どの教員も子ども対応の資質向上に向かって努力できた。教員間の連携がスムーズになされており、互いに意見を出し合って教材研究に励む姿が見られ、園児の成長について日々の記述にも成長が見られた。 ・教育課程の一貫性に取り組んだ教員は、目標と園児の発達が相容れぬ計画内容もあったが、本園の評価項目②に向かって進んだことは評価できる。 ・教員の自己評価に差はあるが、自分自身の見つめ方の差であると考えている。 ・教員1名は子どもの自然への興味を命（かたつむりや蝶のふ化に成功/野菜の収穫体験等）の教育へと広げることができ、他教員の参考になった。 ・コロナ禍の3年間は、園児も保護者も教員も大変な日々であったが、大きく成長した子どもの姿をみると、その苦労など忘れてしまい、むしろ元気な子どもの姿に癒され励まされた3年間であったと思う。
B	

※上記「3.・4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 学校関係者評価委員会の評価

1) 学校関係者評価の重点目標の内、今後も継続して取り組むべき事項（プラス評価）

<p>評価項目① 園児募集対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児減少の原因となる要素について広い視野から分析し、少子化の中にありながら年度末には定員を満たしていることは評価できる。 ・幼稚園を取り巻く社会状況が厳しい中、地域の幼児教育を担う教育機関としての責任を自覚し、園の特色ある取り組みをアピールしながら園児募集に努めていることを評価したい。 ・カタリナの良さは確実にあり、特徴をアピール・周知して成果が出ることを期待する。
<p>評価項目② 教育課程の内容と日々の保育を各教員が検証する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の原点は人的環境としての教員の質であり、この環境が充実して改善点になっている。また、「配慮を必要としている子どもへの対応」も充実している。 ・「心の教育」は幼児期の教育として最も大切なものであると思う。園の教育目標に基づき教師像、幼児像、小学校への接続を念頭に「10の姿」向かって綿密で見通しのある計画をたて、具体的なイメージに照らして子どもの活動や育ちが細かく記録されており、子どもの成長に良い影響を与えている取り組みが素晴らしい。 ・「資質向上のための計画」の中に、「お年玉を世界の子どもたちに献金する心」とあり、幼児期に国際感覚を身につけることにも繋がっている。 ・第18回北条ブロック人権研究大会の発表内容が、園の保育実践を検証する上でも、地域の人々と就学前教育を共有できる良い機会となっている。
<p>評価項目③ 伝統を継承しながら小規模園としての取り組みを活かしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性の重視、個別最適な学びが求められるこれからの時代においては、きめ細やかな対応が可能となる小規模園の良さを生かした取り組みがなされていて素晴らしい。 ・行事や日々の生活の中で、園児一人一人が自分の良さを伸ばし、生き生きと活躍する場を準備し、丁寧なかかわりができるような工夫がみられる。 ・コロナ禍でありながら工夫された行事等が実施され、子どもたちに良い経験になった。
<p>評価項目④ 新制度への移行2年目を検証する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい現状の中でも、教職員の不断の努力によって質の高い教育活動と健全な経営が維持されていることを高く評価したい。 ・新制度の利点を生かし国や県、市からの給付費・補助金を得ながら園の運営をしている姿勢がある。

2) 学校関係者評価の重点目標の内、今後、改善・解決に向けて取り組むべき課題(今後の課題)

<p>評価項目① 園児募集対策</p>	<p>A：適切なマーケティングがなされているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがどこに何人住んでいるのかを把握することが基本。園の重点募集エリアを絞り込むこと。「認定こども園」が提供するサービスの差を踏まえた「募集活動の仕方」や「絞り込み」を行う必要がある。 ・園の情緒的な良さ、情操教育の素晴らしさは全国的に見ても類を見ないと感じるので、この点を大きな魅力としてアピールする。この魅力を理解し共感してくれる市場を見出すことが肝要で地域的な枠組みに捕らわれない取り組みが必要。「少し遠くてもあの園に通わせたい」と思ってくれる市場を見出せば良いと思う。 ・園の特色ある取り組みとして認定こども園や保育所との差別化を図っていくこととその周知・アピールを強化していく。 <p>B：募集につながる ICT 環境の整備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや SNS など、ネット上での宣伝活動をより活発に取り組む。本園のホームページから抱くイメージより、「運動会」や「発表会」の実態は何倍も魅力的で素晴らしいが、ネット上に反映されていない。若い世代へのアピールの工夫が必要。 <p>C：「音楽」をよりアピールできないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の持つ「音楽の力」は他に類を見ない。園児たちの経験する「音楽活動」は、大学のパイオルガンの響きの中で遊戯ができる体験が大きな糧になる得ることを保護者に知ってほしい。電子音ではない本物の生音を聞きながら生活できていることは極めて貴重であるが、園では普通のこととして在る。 ・発表会において保護者はビデオ撮影に懸命で拍手が少ないことに驚いた。心の底からの絶賛で生じる本物の喝采を浴びる経験は子どもの栄養となり、達成感や充実感につながる大切な経験となってくる。聖誕劇の一部を大学学生に披露した際に得られた賞賛の拍手は、園児にも伝わり、貴重な体験となったはずである。 <p>D：園の魅力を伝え理解してもらうこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の良さを保護者や地域の住民に「見える化」できるかどうか重要であり、園が社会のニーズにどう対応するかに関心を持っている。保護者のニーズを捉えておく必要がある。 ・園児募集のために大学との連携を図るとしているが、大学教員の教育活動の参加の仕方はこれまでの園児募集にどの程度貢献した
-------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

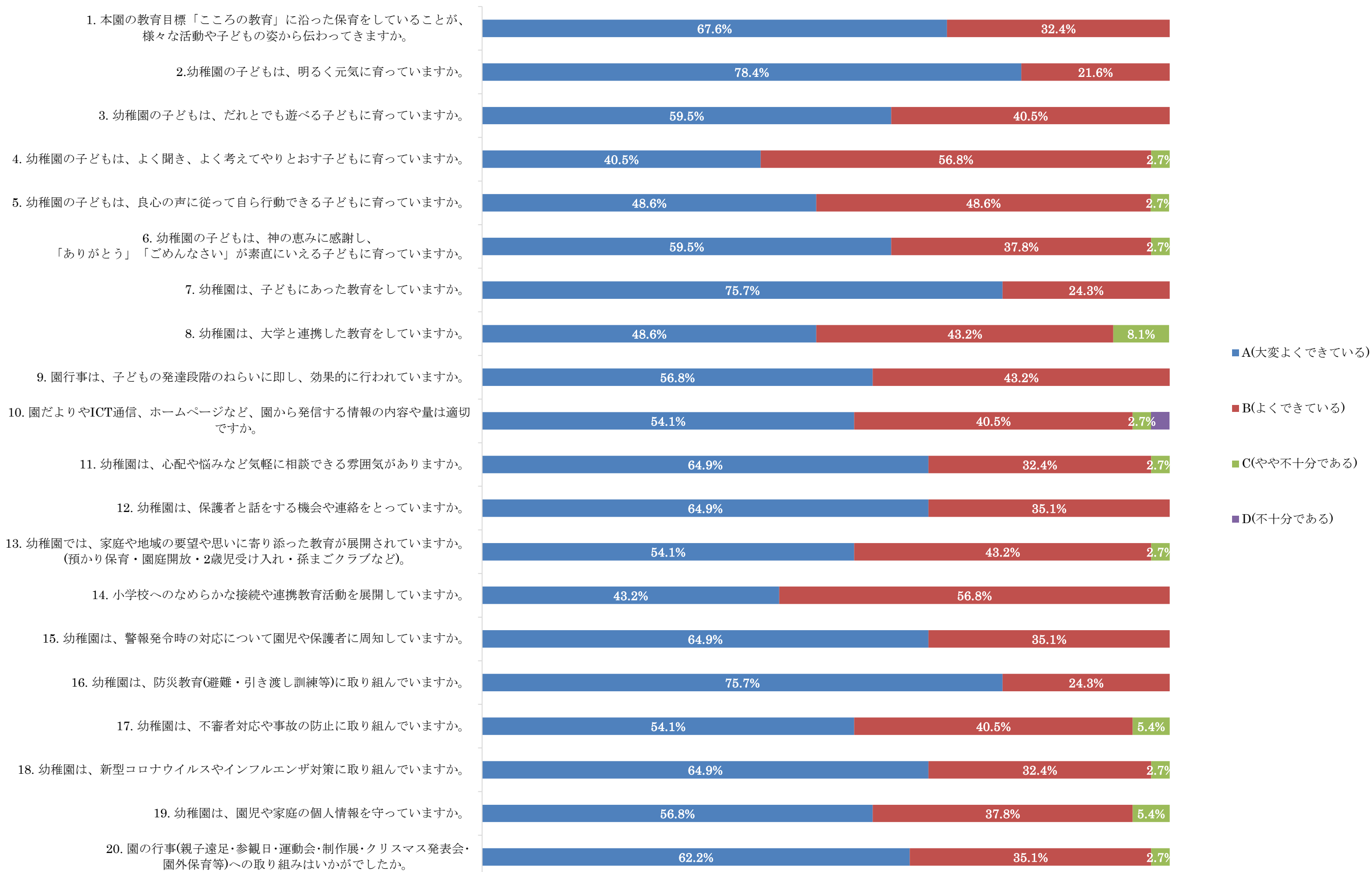
	<p>かを検証し、学生の教育活動への参加を増やして連携していることを保護者や地域に「見える化」することを検討してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学構内の充実した設備を利用できるところは大きな強みであり、小規模園ではあるがのびのびと生活できる環境を生かした取り組みを充実させることが大切。 ・カトリック園ならではの人格教育のすばらしさや、一人一人を大切にする良さなどを周知する努力が必要。 <p>E：仮に認定こども園への移行を考えたとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳児保育は担当制による保育であり、6人の園児を一人で担当するにはリスクがあり教員2名は必要である。人件費が増え、設備の充実を考えると経済的負担が大きい。 ・認定こども園に移行したとしても他園との差別化が必要。
<p>評価項目② 教育課程の内容と日々の保育を各教員が検証する。 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画・実行、検証、改善のサイクルは非常に大切であり、今後も継続して実行されることを期待する。 ・今後の教員の能力として、未満児保育、食育等様々な専門性が求められており、各教員の得意分野が充実して、見せる保育ではなく「見える保育」になっていくことが園児募集にもなる。 ・基本が縦割りであれば「縦割りの年間指導計画」を編成し、縦割り保育中心の教育活動を転嫁する時期に来ているのではないか。同年齢の活動もグループ活動などで保証することで、保護者に積極的な異年齢保育に子どもたちの育ちを援助していくことを見えるようにしていくことはどうか。 ・小学校接続への念頭に置いた教育活動の成果をエビデンスとして蓄積し、教育活動の一層の向上に努めていただきたい。
<p>評価項目③ 伝統を継承しながら小規模園としての取り組みを活かしていく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良き伝統を受け継ぎ、小規模園として手厚くきめ細やかな保育を継承されることを期待する。 ・各行事一定規模を維持していることでアピールできている部分もあることから、「小規模園」というイメージが前面に押し出されないことも大切だと考える。
<p>評価項目④ 新制度への移行2年目を検証する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降の経営環境を改善するための様々な方策について、現在の教育活動を維持しつつ、具現化できるように工夫していただきたい。

6. (1.~5.を踏まえて) 今後本園が、重点的に取り組むべき課題 (次年度の課題)

	課 題	具体的な取り組み方法
1	園児募集対策 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・利用定員を満たす。 ・広報活動を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末には次年度の利用定員を獲得できるよう年度内も募集活動を継続努力していく。 ・令和5年度はICTの積極的な活用にチャレンジし、園内の活動を工夫して「見える化」しながら募集活動につなげていく。 ・ピッコロ活動から募集につなげることができるよう、参加者を増やす方策を考え、未満児や保護者への丁寧なかかわりをしていく。 ・募集のマーケティングを意識して、広報活動を強化する。 ・ホームページを魅力ある内容にしていく他、公開にあたり学年の偏りがないように努力していく。
2	教育活動 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの教育活動を維持していけるよう努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員が教育課程を念頭に日々の保育を実践し、伝統を踏まえながら年間を通して一貫性のある教育となるよう努力する。 ・日々の目標や内容を互いに検証し、学び合いからキャリアアップを図っていく。 ・配慮の必要な園児のみならず、各園児の教育目標を達成できるよう援助していく。 ・小規模園にとらわれず、これまでの教育活動を念頭に、一人一人に丁寧にかかわることを継続して、園児が自信を持って就学できるようにする。
3	人事管理 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・残業を減らす 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員が仕事の能率を上げる工夫をし、残業を減らす。 ・常勤の預かり補助時間を短縮してクラス業務にとりかかれる時間帯を確保し、就業時間内に終えるよう努力する。 ・残業申請を明確にし、働く時間を意識できるようにしていく。 ・各教員の資質にさらに磨きがかかるよう研修の機会を有効活用し、教員間で報告しあってキャリアアップを図る。
4	開かれた園 目標 <p>社会と繋がる方策を検討し、園を公開する工夫をしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ化で外部への発信を控えることが多かった3年間であったが、大学の設備等を活かして、保護者以外の方にも園の教育内容を発信できるようにしていく。 ・園内環境の良さを外部に発信し、外部が園内で集える機会を模索していく。

以上

令和4年度 保護者アンケート 集計結果



令和4年度 保護者アンケート 自由記述と園からの回答

園児募集について

★入園年齢を育休終了時期の1歳からにすることで、共働き家庭への間口をさらに広げ、地域の需要に対してさらなるサービスを提供することで、繋がり強化や将来を見据えての入園者確保に繋がられるのではないかと。

具体的には、①土曜日の預かりを行う ②長期休暇中の給食の提供 ③小学校入学後の学童保育への参入 ④モンテッソーリ教育の活動強化と周囲へのアピール ⑤大学施設の活用に関する周囲へのアピール ⑥インスタの活用（他園では実施している） ⑦ブログを充実させると保護者の興味を引くことができるのでは？ ⑧通わせていて、本当に良い所が沢山あるので、アピールをもっとすると良い

→上記の具体案をありがとうございました。新制度の幼稚園では、1歳からの入園はできません。長期休暇中の給食につきまして新制度の幼稚園では、全園児への提供が前提となっており、長期休暇中の預かりは、食数が日々変わりますので、難しい状況です。一方、他園にはない取り組みとして、大学生がいない時期には、学食でのレストラン体験を実施しており、麺類の提供や、アイスクリームのデザート提供など、日々の給食では体験できない食材を楽しむことができます。保護者様の就労が日常になっている現在、皆様のご要望にどのようにお応えできるのか、その支援が入園につながるができるのか、今後も心にとどめながら検討していきます。今年度は、給食参観日を新設し、楽しんで食事をしていらっしゃる様子をご参観いただくことができ好評でした。次年度も続けたいと思います。また月2回のお弁当日は、子どもたちはとても楽しみにしておりますので、続けたいと思います。

ICTの活用については、努力します。その一つとして、令和5年度よりインスタグラムを開設しました。

要望事項

★モンテッソーリ教育をうたっていますが、良さそうと思ってもどんな事をするのかわかりにくい印象なので、もう少し具体的な説明があるといいと思う。

→モンテッソーリ教育は、まず朝夕のお集りから始まり、日々の園生活の中で椅子の出し入れや絨毯の巻き方、箸の使い方など、生活に密着した中で実践されています。登園後

園児は自分でしたい遊びを見つけ、集まりまでの時間に教具に取り組みます。手先の使い方など、担任がその子にあった教具を提供することもあります。作品として仕上がったものは制作展でご覧いただいておりますが、今後は、日常のモンテッソー教具への取り組みの実際を、ITCを活用してご確認いただけるよう工夫していきます。

★給食でもう少し、肉料理以外の献立が増えると嬉しい。

→ 栄養士と相談してみます。子どもたちはお肉を喜んで食べている姿があります。

★あればよいと思うこと

① 制服やバックのお下がり制度 ②小さくなった洋服の寄付 ③預かり申請をアプリか月決めにしてほしい ④園長先生のピアノレッスン

→ ①②は昨年度まで制作展共催の母の会バザーで出品されており、皆様に喜ばれていました。園に寄贈いただいた場合は、お子様の急な対応に使わせていただいております。バザー準備等の保護者様のご負担削減のため、保護者会総会の決議により、昨年度からバザーは中止となりました。③は預かり利用状況を毎月市役所に報告義務があり、実際に利用された時間をすべて報告していますので、月決めは難しい思います。また、新制度の仕組みにアプリが適応できるかどうか今後の課題です。現在は、預かりの当日変更や時間の変更などが柔軟にできておりますので、保護者様にとってどちらがご利用し易いのか、慎重に検討していきます。④はすでに実施しています。その他、放課後の課外活動として、「書き方教室」「バレエ教室」「サッカー教室」を開設していますので、朝7時半から夕18時半までの預かりも含めて、放課後も園内でお過ごしいただけるよう態勢を整えています。

本園の良いと思うところ

★縦割り保育がとても良い。違う学年（特に年下）に対するこどもの対応が他園より優しく上手な子が多いと実感している。

★先生がいつも笑顔で対応してくださり話しやすい。小さな変化にも気がついてくれていてありがたい。毎日様々な活動（製作・歌・音楽あそびなど）があり、子どもも楽しく通っている。

★天候などによる緊急時の対応など、配慮していただきとても助かる。

★園であった些細な事も伝えていただきありがたい。

★素敵な幼稚園で過ごせて良かった。

★保護者や祖父母が発表会を見に行ける機会は、幼稚園が1番多い。大学の大きなホールや記念体育館を使用でき、多くの方が見学できることは魅力的である。

★聖カタリナ附属幼稚園は本当に素晴らしい園だと思う。先生方の素晴らしさ、附属幼稚園ならではの贅沢な環境、いつも子供達に「大好きだよ」と抱きしめて、沢山の笑顔で接してくれる。駄目なことはちゃんと子どもの目線で叱ってくれる。忙しい時は我が子に対してもどうしてもできない時があり、子ども達は本当に幸せだと羨ましく思う。

★先生方の充実感が教育現場にも現れると思い入園を決めた。

★ピッコロ活動に参加し、この園に来たいと思った。園長先生のピアノや珍しい楽器との出会いは、贅沢な時間だと思う。園長先生と教頭先生のやり取りを見て、内部組織も厳しいながらも風通しがよい園と感じた。

★ピッコロをもっと活用して先生方と触れ合い、施設の活用をしていくと保護者のイメージもより膨らむのではないか。モンテッソーリの活動もとても興味がある。

★大学の施設を使える事は贅沢であり、聖誕劇のパイプオルガンとの共演は鳥肌が立った。入園先を考えている保護者の皆様があそのシーンを見たら魔法にかかってしまうと思うので、是非そのシーンを入園前のお母さん達に見ていただき、素晴らしい幼稚園を肌で感じてほしい。

★いつも子供と保護者に寄り添っていただき楽しく通うことができている。ありがとうございます！

★カタリナに入って良かった点は、制作や発表会のクオリティの高さ、朝のお仕事、預かりの先生がずっと遊んでくださる、先生達が優しい、何より子どもが心底楽しそうな所が魅力的である。

保護者の皆様から、多くのご意見を賜り、心から感謝申し上げます。教員一同力をいただきました。今後も皆様の応援団として、本園を続けていくことができるよう、園児募集を頑張っていきたいと思っております。皆様のご協力を心からお願い申し上げます。